

新野東小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、児童が自ら考え、判断し、表現することができる授業の実践
- 学校及び家庭での学習習慣を身に付け、粘り強く課題に取り組む児童を育成するための指導方法の工夫

校長

学力向上推進員

- 委員 校長  
教頭  
教務・研修主任  
学力向上

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○算数の学習では、自分の学習状況に応じて内容を自ら選択して、学習できるようになってきている。</p> <p>●初見の長文を読む経験が少なく、内容を読解することが難しい。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>・文章全体を読んで要旨を捉えたり、内容を正しく理解したりすることができる。</p>	<p>・知識・技能の習得状況を把握し、定着が不十分な分野の原因分析等を通して、授業改善を行う。</p> <p>・読書の時間に新聞を読む時間を確保する等して、色々なことに興味を広げ、読解力を向上させる。</p>	<p>・知識・技能の習得状況を把握し、つまづきを早めにキャッチし、個別指導など習得できるまで継続的に指導していく。</p> <p>・読書の時間を設け、子ども新聞を活用し、気になった記事の紹介・発表を行う。また教材と同じ筆者の本を読むことにより興味を広げることができ、集中して読書に取り組めるようになった。</p>	<p>・一人ひとりの知識・技能の習得状況を把握し、早期につまづきに対応するなど、継続的な個別学習により習得率の向上につなげることができた。</p> <p>・説明文などの学習において、文の構成や要旨・キーワードなどに着目できるようにして、読み取りを行うことで、読解力が付いてきた。</p>	<p>・児童が自発的に自分の学習状況に応じて、学習内容を選択したり、苦手な所を継続的に復習することで、バランスよく力を付けていく。</p> <p>・朝の活動時間に読書の時間を設け、子ども新聞を活用するなど、計画的に読解力の向上に取り組んでいく。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○全校的な活動の場で、自ら発言できる児童が増えてきた。理由や根拠を明確にし、相手に伝わるような表現ができるようになってきた。</p> <p>●習得した知識・技能を活用し、感想や要約などを文章で表現することには、苦手意識がある。</p>	<p>・様々な相手や場面で、自分の意見を積極的に発表することができる。</p> <p>・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、感想や要約などの文章表現に生かすことができる。</p>	<p>・ICTの効果的な活用を検討し、タブレットや交流による協働学習ができる場を設定し、見方や考え方を広げることができるようにする。</p> <p>・引き続き言語活動の充実に取り組み、活動後に感想を発表する場を設け、根拠が明確になるよう自分の考えをまとめたり、表現の工夫をしたりすることができるようにする。</p>	<p>・インタビューやアンケートを実施することで多様な考えを知り、それらをICTを効果的に活用して新聞にまとめ、自分の考えを周囲に伝えることができた。</p> <p>・話し合いの場を設け、自分の考えを発表し、考えを深めたり、広げたりしている。考えがまとまらないときは、対話により、様々な表現ができるように選択肢を用意するなどの支援を実施していく。</p>	<p>・全校での活動の場で、スピーチなど自分の考えを発表することで、主体的に表現することにつなげることができた。また、学習発表会では全員が堂々とセリフを言い、工夫した劇ができていた。</p> <p>・要約する学習を通じて、作者の意図や登場人物の心情を考察する習慣が少しずつ身に付いてきた。</p> <p>・自分の考えは伝えることができるが、考えに至る経緯や深い考えを伝えることは十分でない。</p>	<p>・話し合いの場を設け、友だちの意見を大切にしながら、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように支援をしていく。</p> <p>・習得した知識や技能を活用し、文章の要約や感想などを文章で表現できるように、ワークシートを工夫するなどして支援していく。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○友達の自主学習を見ることで、学習の仕方が分かり、様々な内容に積極的に取り組むようになってきた。</p> <p>○日頃から家庭学習に並行読書を取り入れたことで、平日の読書時間が増えた。</p> <p>●家庭学習に主体的に取り組むことができない児童が多い。</p>	<p>・自分の学習状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習に取り組むことができる。</p> <p>・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけ取り組むことができる。</p> <p>・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。</p>	<p>・自ら課題を見つけて家庭学習や自主学習に取り組めるように、やり方や支援方法を工夫し、教職員間で情報交換しながら更なる改善を図る。</p> <p>・読書の幅を広げられるように工夫しながら、読書活動の推進を継続する。</p> <p>・平日、週末の並行読書に、積極的に取り組ませる。</p>	<p>・自主学習はしているが、興味があるものにとどり着けていないため、自主学習の事例を掲示するなど見方や考え方を広げていく。</p> <p>・読書の幅を広げられるように週1回学校図書館サポーター・月1回の地域の読み聞かせを実施している。</p> <p>・読書賞を表彰するなど、読書に対する意欲を持たせ、読書が習慣化するよう具体的に支援する。</p>	<p>・自主学習の事例を児童玄関付近に掲示するなどして、他の児童の自主学習への取り組みを広げていくことができた。またそうすることで、自主学習の内容を工夫し、興味あることや挑戦したいことに主体的に取り組もうとする態度を向上することができた。</p> <p>・読書賞を表彰するなど読書に対する意欲を持てるようし、朝の活動や隙間時間の読書、週末読書に取り組んだことで、読書への意欲は高まり、読書量が増えた。</p>	<p>・自主学習コーナーの工夫や学級ごとにめあてやテーマを決めるなど、自主学習の内容を工夫することで、基礎・基本の定着を図るとともに興味があることを深く調べることができるようにしていく。</p> <p>・木曜日の朝の活動を読書の時間とするなど、隙間時間の読書、週末読書を継続して進めていくとともに、前期・後期の読書賞の表彰も継続していく。</p> <p>・子ども新聞を活用し、様々な記事にふれることにより、自分の考えや表現の仕方を身に付けていく。</p>